

【事業の経緯】

別添資料1

港湾-3 崎戸港海岸環境整備事業の経緯

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B/C	概要
		着工	完了			
当初	—	H9	H23	24.9	—	突堤 2基 潜堤 110m 遊歩道(A) 240m <sup>2</sup> 護岸 60m 人工海浜 84,000m <sup>3</sup> 離岸堤 100m 遊歩道 5,400m <sup>2</sup> 護岸(改良) 491m 植栽 1,800m <sup>2</sup>
第1回審議 (H18)	事業採択後 10年を経過した 事業	H9	H23	22.2	4.05	突堤 2基 潜堤 110m 護岸(改良) 520m 人工海浜 56,000m <sup>3</sup> 離岸堤 100m 遊歩道 5,400m <sup>2</sup> 植栽 4,500m <sup>2</sup>
事後審議 (H28:今回)	事業完了後 5年経過	H9	H23	21.0	4.18	突堤 1基 潜堤 82m 護岸(改良) 515m 人工海浜 24,000m <sup>3</sup> 離岸堤 100m 遊歩道 1,250m <sup>2</sup> 植栽 5,950m <sup>2</sup>

## 事後評価結果（平成 28 年度）

※水色のセル箇所を入力すること。  
 ※他の課の「行」は、「非表示」にすること。  
 ※必要に応じて改変しても構いません。

整理番号	港湾-3
担当課	県北振興局港湾漁港第一課
担当課長名	新野 耕三

事業名	崎戸港海岸環境整備事業	事業区分	港湾事業	事業主体	長崎県
起終点	カキノウラ 自：長崎県西海市崎戸町蛸ノ浦地区 カキノウラ 至：長崎県西海市崎戸町蛸ノ浦地区			延長	突堤1基 潜堤82m 護岸(改良)515m 人工海浜24,000m <sup>3</sup> 離岸堤100m 遊歩道1,250m <sup>2</sup> 植栽5,950m <sup>2</sup>

### 事業概要

既設護岸は老朽化が著しく天端高も不足しており、台風等による越波被害を受けていることから、護岸(改良)515m等の整備を行うものである。

### 事業の目的・必要性

・蛸ノ浦地区の既設護岸は老朽化が激しく天端高も不足していることから台風による被害が生じている。また、西海市も近隣でレクリエーション施設等が存在しており、海岸環境整備事業にて観光拠点を創出し海に親むることができる地域振興に寄与する海岸施設の整備を行っている。

### 事業概要図

#### 位置図



工期	着工	H	9 年度			
	完了	H	23 年度			
事業費	当初		22.2 億円			
	最終		21.0 億円			
B/C	当初	4.05	総便益(B) 100.0 億円	総費用(C) 24.7 億円	基準年度 H 18 年度	
	事後評価時点	4.18	総便益(B) 144.4 億円	総費用(C) 34.6 億円	基準年度 H 28 年度	

### 便益の主な根拠

- ・高潮防護便益: 2.64億円/年
- ・負担便益(支払意志額): 2.87億円/年

### 事業の発現状況

- 事業の効果等
- ・高潮、波浪の被害から国土を保全することにより、民生の安定を図っている。
  - ・施設完成後、人工海浜等の整備により海水浴場、地域のイベントの場として利用され地域振興に貢献している。

事業による環境変化	・特になし
事業を巡る社会経済情勢等の変化	
・当該海浜から日帰り圏内の世帯数が増加(16.0万世帯→16.7万世帯)。	
対応方針	
当該事業に係わる対応方針	
(今後事後評価の必要性及び改善措置の必要性)	
・施設完成後、高潮や浸水被害は発生していない。また、海水浴場として多くの人に利用されており事業の効果がみられることから今後の事後評価の必要性、改善措置の必要性はないと判断している。	
同種事業に係わる対応方針	
(同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性)	
今後、人口減少などの社会情勢の変化、海水浴場利用者のニーズの多様化などの利用形態の変化が予想される。海水浴利用のみならず、更なる利用を図り地域活性化に繋げるため、交流場所の拠点施設として地元と連携したソフト対策が必要と考える。また、事業評価手法の見直しの必要性については、事業完了後における事業効果について確認できることから、同種事業についても同じ手法を用いて評価を行いたいと考えている。	
特記事項	
・特になし	

# 平成28年度 長崎県公共事業評価監視委員会

## 港湾-3 崎戸港海岸環境整備事業

### 崎戸港海岸

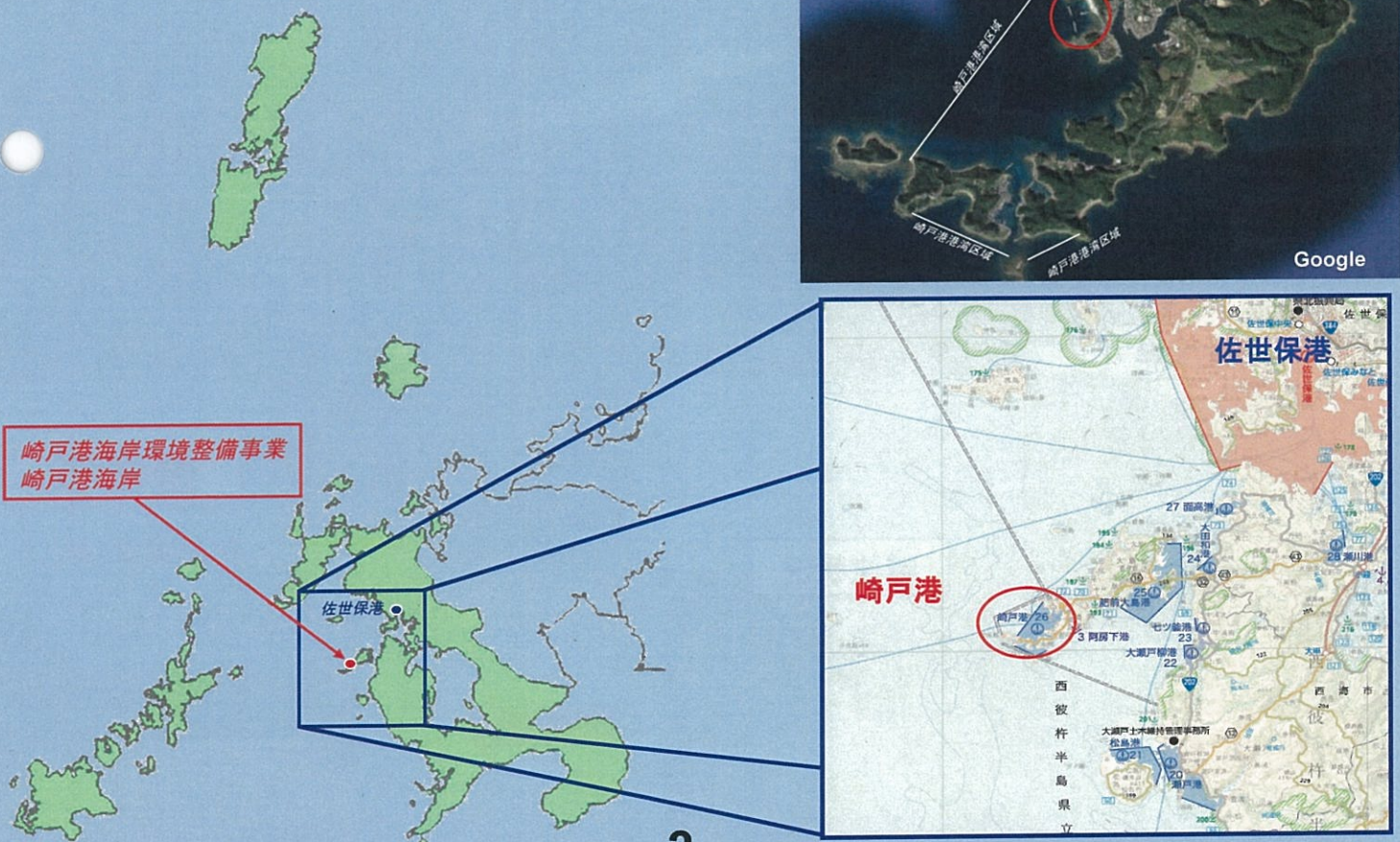
カキノウラ

西海市 崎戸町 蛸ノ浦地区

### 長崎県

1

#### 崎戸港海岸の概要



2

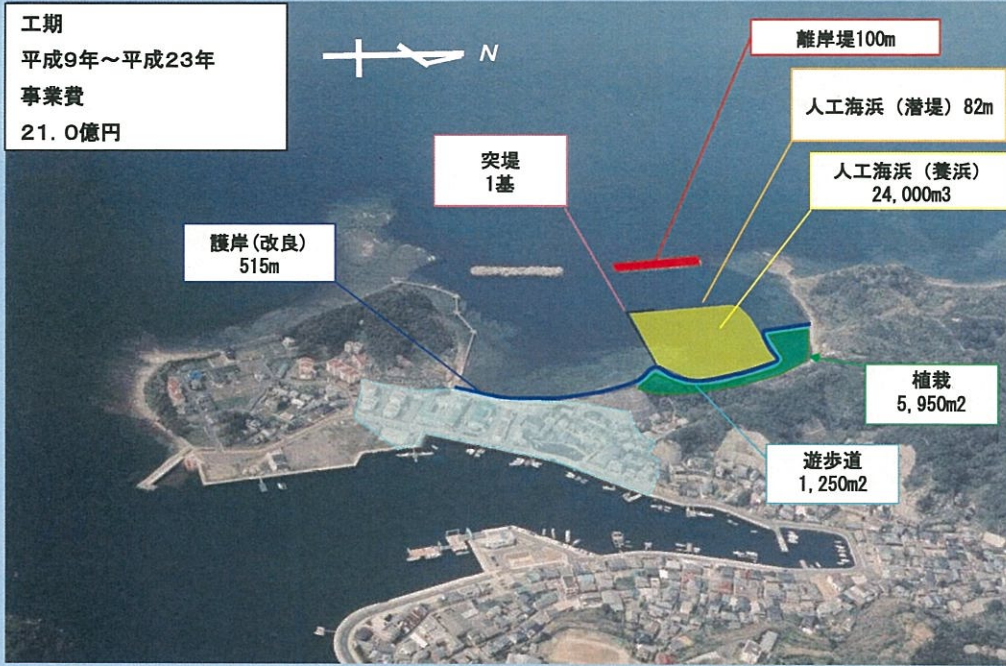
# 事業の概要

整備目的

『老朽化した護岸を改良し異常気象時の越波被害を防止し人命・資産を護る』

『ビーチ整備により観光拠点を創出し、交流人口の拡大を図り地域振興に寄与する』

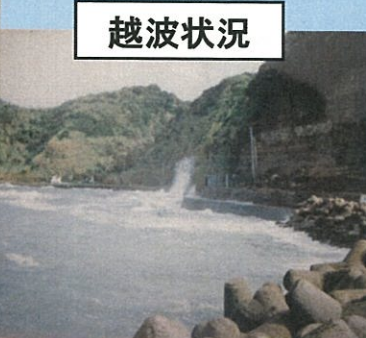
工期  
平成9年～平成23年  
事業費  
21.0億円



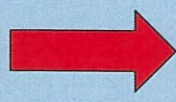
3

# 整備効果①

『老朽化した護岸を改良し異常気象時の越波被害を防止し人命・資産を護る』



越波被害“無し”



4

## 整備効果②

『ビーチ整備により観光拠点を創出し、  
交流人口の拡大を図り地域振興に寄与する』

### 海水浴場の利用状況

海水浴場・海浜公園名	利用者数(H27)
崎戸港海浜公園(崎戸町)	9,300人
大釜海水浴場(大島町)	2,500人
雪ノ浦海浜公園(大瀬戸町)	6,525人
尻久砂里海浜公園(大瀬戸町)	11,842人
柳の浜海水浴場(大瀬戸町)	3,000人
合計	33,167人

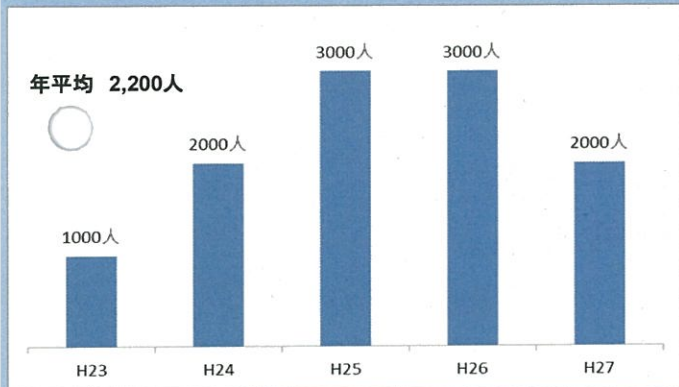
西海市より



H278撮影

### イベント状況

『さきと納涼花火大会』 毎年8月10日に開催  
約2,200人が参加



H278撮影

5

## 対応方針

項目	前回	事後評価	要因
B/C	4.05	<b>4.18</b>	
便益(benefit)	5.65億円/年	5.51億円/年	
防護便益	2.91億円/年	2.64億円/年	防護戸数の減少 51棟→47棟
海岸利用便益	2.74億円/年	2.87億円/年	受益世帯の増加 16.0万→16.7万
費用(cost)	22.2億円	21.0億円	突堤、人工海浜(養浜)の縮小

『異常気象時の越波被害を防止し人命・資産が守られている』

『ビーチ整備により観光拠点を創出し、交流人口の拡大が図られている』



投資効果が認められ、整備効果について発現されている

## 【今後の事後評価及び改善措置の必要性】

・施設完成後、高潮や浸水被害は発生していない。また、海水浴場として多くの人に利用されており事業の効果がみられることから、今後の事後評価及び改善措置の必要性はないと判断。

## 【同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性】

・今後、人口減少等の社会情勢の変化、海水浴場利用者のニーズの多様化などの利用形態の変化が予想される。海水浴利用のみならず、更なる利用を図り地域活性化に繋げるため、交流人口の拠点として地元と連携したソフト対策が必要。

・事業完了後における事業効果について確認ができることから、同種事業についても同じ手法を用いて評価を行いたいと考える。

【事業の経緯】

別添資料1

河川-1 神浦川総合流域防災事業の経緯

審議経過	再評価 の理由	工 期		事業費 (億円)	B / C	概要
		着工	完了			
第1回審議 (H11)	着手後 10年経過	H2	H15	15.5	1.10	改修延長 L=1,750m 河道拡幅に伴う河床掘削、築堤、護 岸整備、堰改築等
第2回審議 (H14)	工期延長の為	H2	H19	16.2	3.94	改修延長 L=1,750m 河道拡幅に伴う河床掘削、築堤、護 岸整備、堰改築等
第3回審議 (H19)	再評価後 5年経過	H2	H23	16.2	3.44	改修延長 L=1,750m 河道拡幅に伴う河床掘削、築堤、護 岸整備、堰改築等
第4回審議 (H28:今回)	事業完了後 5年経過	H2	H23	16.1	3.30	改修延長 L=1,750m 河道拡幅に伴う河床掘削、築堤、護 岸整備、堰改築等



## 事後評価結果（平成 28 年度）

※水色のセル箇所を入力すること。  
 ※他の課の「行」は、「非表示」にすること。  
 ※必要に応じて変更しても構いません。

整理番号	河川-1
担当課	河川課
担当課長名	里 恒弘

事業名	総合流域防災 神浦川		事業区分	河川改修事業	事業主体	長崎県
起終点	自: 河口 至: 支川長七川合流点上流		延長	1,750km		
<b>事業概要</b> 当河川は、昭和32年、昭和38年、昭和57年等の降雨により、浸水被害を受けており、河口～支川長七川合流点上流区間延長1,750mについて、河道拡幅及び河床掘削、築堤、護岸整備、堰改築などを行う。						
<b>事業の目的・必要性</b> 当河川は、災害発生時の影響として、周辺の家屋及び田畑の浸水が想定され、地域からも洪水氾濫被害に対する安全の確保が望まれている。						
<b>事業概要図</b>						
工期	着工	H	2 年度			
	完了	H	23 年度			
事業費	再評価時点(H19)	16.2 億円				
	最終	16.1 億円				
B/C	再評価時点(H19)	3.44	総便益(B)	76 億円	総費用(C)	22 億円 基準年度 H 19 年度
	事後評価時点	3.30	総便益(B)	113 億円	総費用(C)	34 億円 基準年度 H 28 年度
事業目的に 関する 諸条件	計画流量	300 m <sup>3</sup> /s		治水安全度	1/30	
	災害発生時影響(想定氾濫区域)	84 mm/hr				
事業の 効果等	①浸水戸数	:	54 戸	④災害時要援護者施設	: 神浦小学校	
	②浸水面積	:	5.5 ha	⑤その他	: 主要地方道神浦港長浦線	
事業の 効果等	③重要な公共施設等	:	神浦駅前センター、MTT神浦電話交換局			
	過去の災害実績					
事業の 効果等	①主な被災年	:	昭和32、38年、57年	④重要な公共施設等	: 神浦駅前センター、MTT神浦電話交換局	
	②最大浸水戸数	:	135 戸	⑤災害時要援護者施設	: 神浦小学校	
事業の 効果等	③最大浸水面積	:	7.3 ha	⑤その他	: 主要地方道	
	災害発生の危険度					
事業の 効果等	①改修目標流量に対する改修前流下能力	:	約80%程度(鱸岩橋地点)			
	②改修前の治水安全度	:	1/5年確率規模相当(鱸岩橋地点)			
事業の 効果等	治水					
	治水安全度の向上	概ね1/5(改修前)→1/30(改修後)				
事業の 効果等	アンケート調査の結果、ほとんどの住民がその効果を認め、水害に対して安心して生活できている。					

事業による環境変化	利水	農業用水は溜池及び改築された堰により確保されており、問題は生じていない。
	環境	アンケートの結果、 動物の変化は、約10%の方は「増えた」と感じているが、約70%の方は「減った」と感じている。 植物の変化は、約50%の方は「あまり変わらない」又は「増えた」と感じているが、約40%の方は「減った」と感じている。
	親水性・その他	管理用通路が整備され、散策に利用されるようになっていいる方もいれば、住民以外の人々の利用が増えたことで、自身の利用が減ったという方もいた。 河川の清掃活動に、約60%以上の方が実際に参加されて、河川の清掃活動への参加意欲がある方は約10%以上である。
	事業を巡る社会経済情勢等の変化	特に開発計画もなく、人口の変動も少ない。
対応方針		
当該事業に係わる対応方針 (今後事後評価の必要性及び改善措置の必要性)		
		洪水被害の軽減効果が確認され、事業評価の必要性はないと思われる。
同種事業に係わる対応方針 (同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性)		
		当事業は、緩傾斜護岸や魚道の整備等、人々の河川利用及び環境に配慮した改修工事を行った。これにより、小学生や、住民の方以外の利用も増えて、親しまれる河川になった。 現在、伐採については地域住民の方々が行っている。親しまれる河川になることで、伐採等の維持管理について住民の方の協力が得られやすく、県の負担の軽減にもつながると考えられる。
特記事項		
		特になし

# 平成28年度 長崎県公共事業評価監視委員会

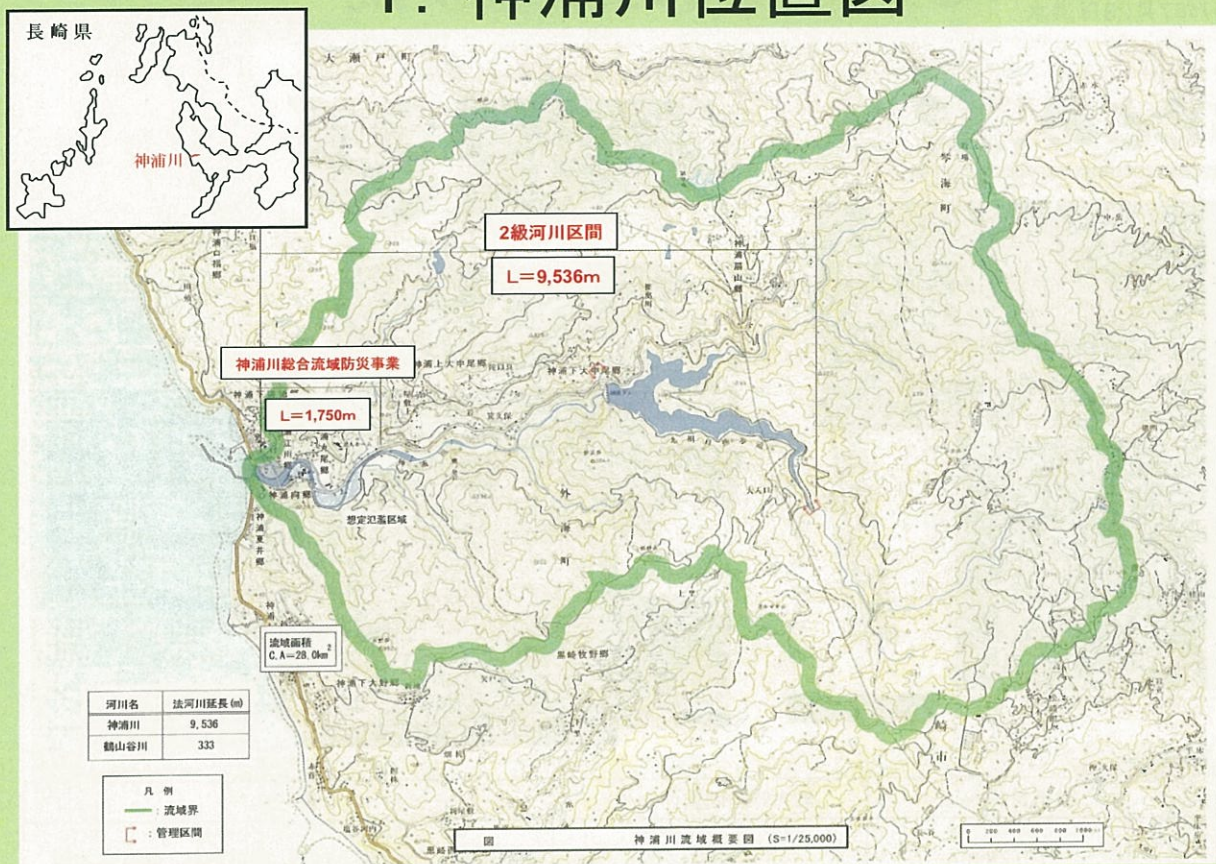
## 事後評価対象事業

### 河川－1 総合流域防災事業 神 浦 川

長崎県

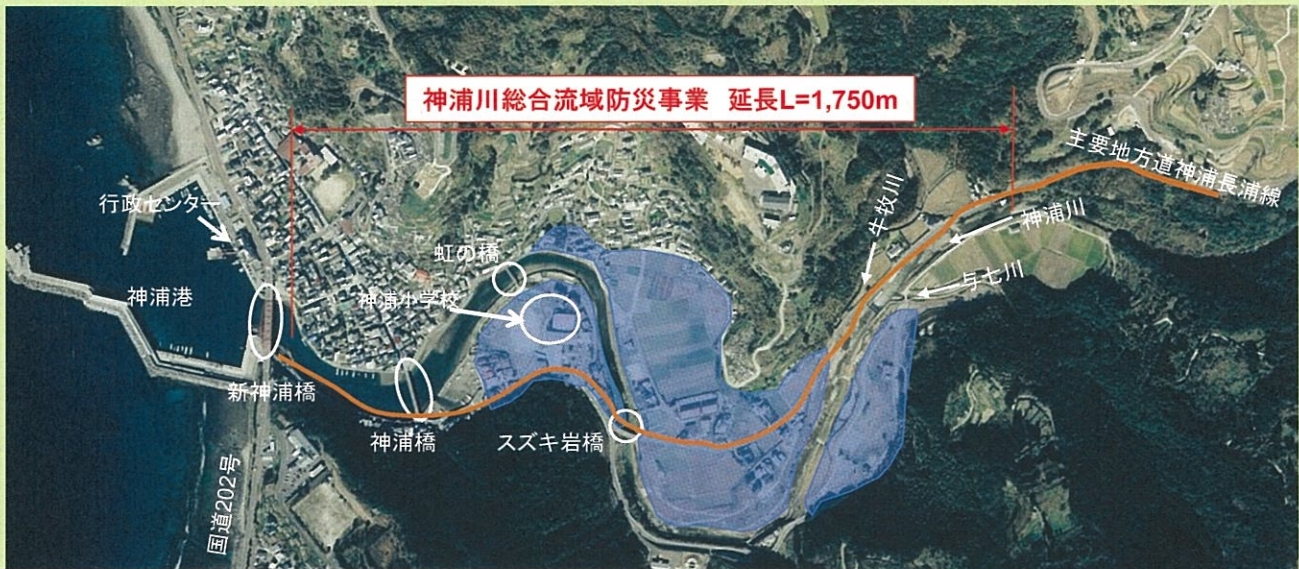
1

## 1. 神浦川位置図



2

## 2. 事業概要



- ・河川改修区間延長  
L=約1,750m
- ・事業概要  
河川拡幅に伴う河床掘削、  
築堤、護岸整備、堰改築等
- ・工期  
平成2年度～平成23年度
- ・事業費  
16.1億円



## 3. 神浦川の水害状況

昭和57年7月23日洪水



### 水害発生時の気象

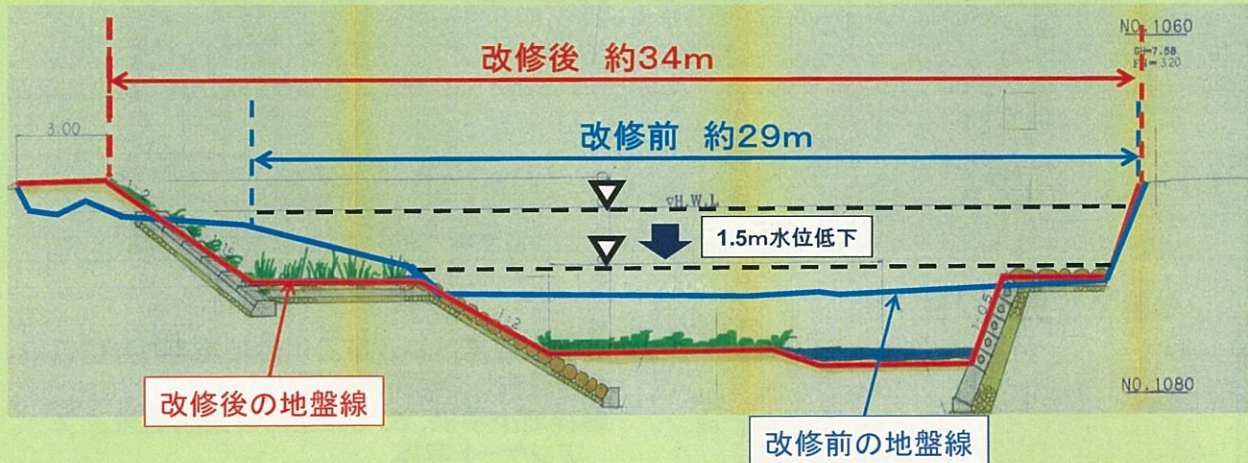
年月日	日雨量(mm/日)	最大時間雨量(mm/h)	備考
S57.7.23	472mm	153	浸水面積7.3ha、床上79棟、床下35棟、全半壊21棟

## 4. 事業効果の視点(1)-1

### 【事業の効果等】

#### 神浦川改修前後の断面図

河口より1060m付近  
(神浦川計画基準点)



#### 確率規模

1/5(改修前)→1/30(改修後)

5

## 4. 事業効果の視点(1)-2



緩傾斜護岸、魚道の整備等により、河川氾濫の危険性の軽減だけでなく、人々の河川利用及び環境に配慮した改修工事も行った。

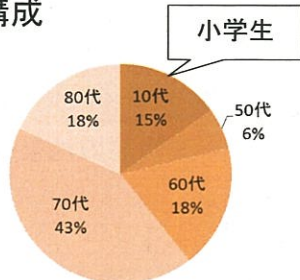
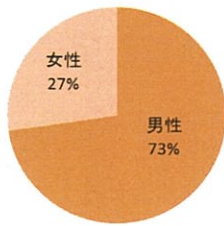
6

# 4. 事業効果の視点(1)ー3

## 【河川整備に関するアンケート結果】

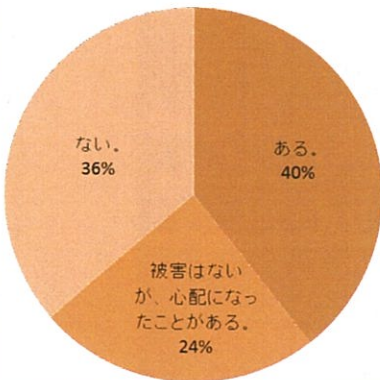


### ・年齢及び男女構成



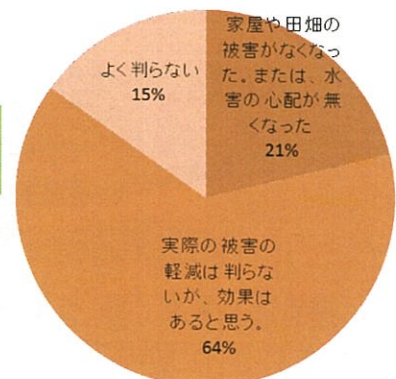
- 浸水氾濫区域及び沿川の地域を対象に自治会を經由して配布及び回収
- 神浦小学校、5, 6年生に事業説明後、アンケート実施
- ・調査時期 : 平成28年3月
- ・配布数 : 33通
- ・回答数 : 33通

### ● 水害経験



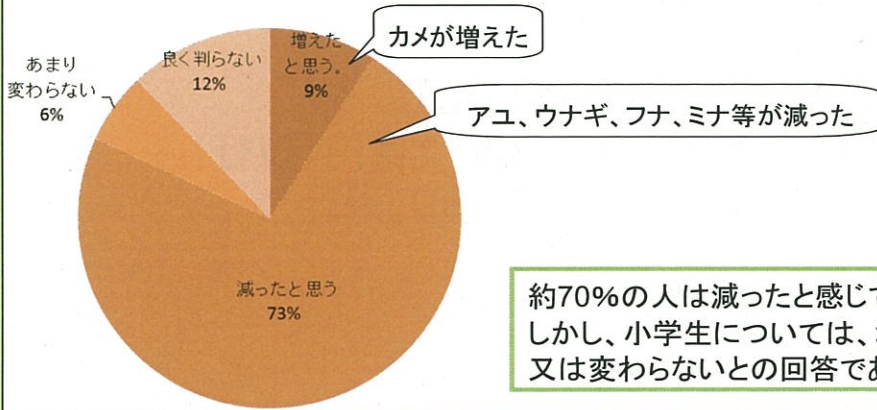
水害に対して60%以上の方が被害にあった又は心配になったことがあるとの回答であった。

### ● 改修効果



約85%の人が、河川改修の効果を感じている。

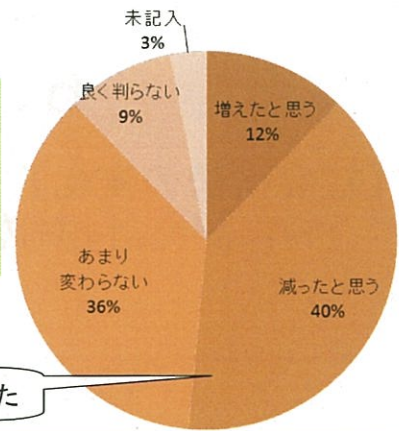
### 改修による動物の変化



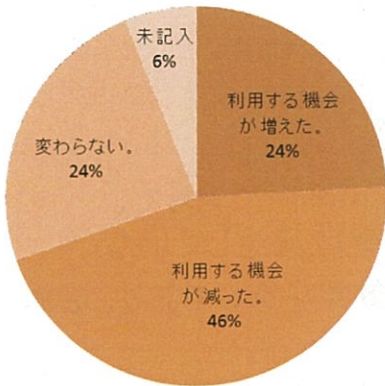
約70%の人は減ったと感じている。しかし、小学生については、増えた又は変わらないとの回答であった。

### 改修による植物の変化

40%の人が減ったと感じているが、約50%の人は植物の変化に変わりはない、または増えたとの回答であった。



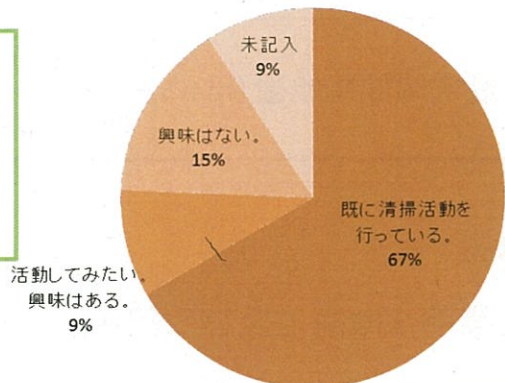
### 河川の利用状況



約50%の人が利用機会が増えた、または変わらないとの回答であった。また、子供が県外から帰省するときに、良い遊び場ができたので良かったという意見もあった。利用機会が減った理由には、自分自身の高齢化や、外部の利用者の増加があった。

### 清掃活動

神浦川愛好会として清掃活動をしている人が多く、神浦川に対する関心の高さがわかる。また、興味はないという回答の理由として、高齢の為という意見が複数あった。



## 5. 事業効果の視点(2)

### 【費用対効果の算定基礎となった要因の変化】

- ・事業費 : 16.2億円(前回) → 16.1億円(現行)
- ・B/C : 3.44(前回) → 3.30(現行)

○費用対効果の変更(3.44→3.30)  
資産評価額の時点修正によるもの

## 6. 事業効果の視点(3)

### 【社会情勢の変化】

- ・特に開発計画もなく、人口の変動も少ない

11

## 7. 事後評価の視点(4)－1

### 【今後の事後評価及び改善措置の必要性】

#### ・治水

河川改修後(H23年度)以降、長浦岳で計画時間雨量84mm/hrに対して、96.5mm/hrを記録した降雨があったが、神浦川の洪水被害は発生していない。

また、アンケートにおいて、約85%の人が、河川改修の効果を感じており、治水効果は発揮されている。

改修後の主な降雨(H23年度以降)

項目/順位	1位	2位	3位	4位	5位
最大時間降水量(mm)	96.5	96.5	96.0	70.0	56.5
	2011/8/26	2012/10/28	2014/7/3	2015/8/12	2012/6/24

長浦岳観測所

#### ・利水

農業用水は溜池及び改築された堰により確保されており、問題は生じていない。

12



## 7. 事後評価の視点(4)－2

【同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性】

### ・環境

緩傾斜護岸や魚道の整備等、人々の河川利用及び環境に配慮した改修を行ったことにより、小学生や住民の方以外の利用も増え、親しまれる河川になった。

生物については、改修前と比べて「減った」との意見が多かった。しかし、事業完了後の変化についての意見は無く、頻繁に川を利用する小学生は「増えた」「変わらない」との意見が多かった。これより、今後維持管理を行う中で、生物の生態状況等、経過観察を行い、地元住民と情報共有を図りながら対処する。



13

## 7. 事後評価の視点(4)－2

### ・維持管理

河川の清掃活動に関して、約80%の人々が、すでに行っている又は興味があるという意見であり、神浦川に対する地元住民の関心度は非常に高いことがわかる。今後の維持管理体制については、今の住民の河川に対する関心度の高さを活かし、地元住民と協力し、お互いに負担を軽減できるような持続可能な維持管理体制の構築をしていく必要がある。

14